著作権保護コンテンツ

大特集

一緒に育った ロングセラー絵本

世代を超えて読み継がれ、たくさんの子どもたちが一緒に育った絵本たち。
1953年に石井桃子さんによって誕生したシリーズ「岩波の子どもの本」から
順に振り返りながら、愛され続けている魅力を探ります。
数々のロングセラーの翻訳を手がけている間崎ルリ子さんと
クラシカルな幼年童話を翻訳している小宮由さんにもお話を伺いました。
P72〜73のリストを含め、194冊をご紹介します。

連動フェア実施！

この特集で紹介した絵本のコーナーが以下の書店に設けられます。くわしくは下記まで

にこにこ書店（東京都新宿区）
03-3565-6232

ブックハウスカフェ
（東京都千代田区）
03-6261-6177

1960年代の絵本

祝60周年

『スイミー』について

『スイミー』が米国で出版されて60年になりました（日本での出版はもう少しあとのことになります）。日本で愛されているのは、絵本の力だけではなく小学校の国語の教科書に長く掲載されているおかげです。現在発行されている国語の教科書すべてに、レオ＝レオニさんの作品が掲載されており、これだけ広く読まれている海外の作家はほかにいないのではないでしょうか。

印象的だったのは、2011年の東日本大震災が起きた数日後に、書店員さんが『スイミー』の一節を引用したツイートがものすごい勢いで拡散されたことです。『スイミー』を思い出して元気が出た、などたくさんの声が寄せられました。これは多くの人が『スイミー』の物語を共有しているからこそ起きた現象でした。

小学2年生になるわが子もちょうど『スイミー』を学習したばかり。授業ではいろいろな意見が出て盛り上がった！と言っていたので、また折に触れて『スイミー』を思い出し読み継いでくれるとうれしいです。（好学社／山口堅太郎さん）

原書1963年出版

『スイミー
ちいさな かしこい さかなの はなし』

作／レオ＝レオニ　訳／谷川俊太郎
1,650円（好学社／1969年）

スイミーはたくさんの仲間たちと楽しく暮らしていました。みんなの体は赤いのに、どうしたわけかスイミーは黒い色をしています。ある日、大きな魚が仲間たちを飲み込んでしまい、スイミーだけが助かりました。

『りゅうの めの なみだ』

文／浜田広介
絵／いわさきちひろ
1,320円（偕成社／1965年）

人間に恐れられていたリュウですが、ある町にリュウを怖がらない男の子がいました。男の子は自分の誕生日に招待しようと、リュウに会いにいきます。話をするうちにリュウは男の子の深い愛に気づき、涙を流し始めました。

『いない いない ばあ』

文／松谷みよ子　絵／瀬川康男
770円（童心社／1967年）

「にゃあにゃが ほらほら いないいない……」で次のページをめくると、期待したとおりに「ばあ」とネコの満面の笑顔が。赤ちゃんが大好きな「いないいないばあ」をいろいろな動物たちが見せてくれます。

『あおくん と きいろちゃん』

作／レオ・レオーニ　訳／藤田圭雄
1,320円（至光社／1967年）

あおくんのいちばんの友だちはきいろちゃん。ふたりは一緒にいられることがうれしくて色が混ざって緑色になってしまいました。家に帰ると、お父さんにもお母さんにも、緑色はうちの子ではないと言われてしまいます。

『ちいさいおうち』

文・絵／バージニア・リー・バートン
訳／いしいももこ
1,870円（岩波書店／1965年）
※岩波の子どもの本版、880円は1981年

四季折々に美しい花が咲く丘の上に、小さな家が建っていました。年を経るごとに、まわりは徐々に開発されて大都会になってしまいました。小さな家は昔ののどかな風景を懐かしく思うのでした。

『どんくまさん』

絵／柿本幸造
文／蔵冨千鶴子
案／武市八十雄
1,430円（至光社／1967年）

友だちがほしくて山奥からウサギの町にやってきたどんくまさんは、何をやっても失敗ばかり。幼稚園ではイスを壊してしまいました。でも、町のみんなはやさしくどんくまさんを見守ります。

『11ぴきのねこ』

作／馬場のぼる
1,320円（こぐま社／1967年）

トラネコ大将と10匹の野良ネコたちは、いつもおなかをすかせています。そこで、怪物みたいに大きな魚がいるといわれている湖にやってきました。11匹は力を合わせて魚をしとめることができるでしょうか。

『花さき山』

作／斎藤隆介
絵／滝平二郎
1,430円（岩崎書店／1969年）

山菜をとりに入った山で道に迷ったあやは、美しい花が咲き乱れている花畑に出くわします。その花は、自分のことより人を思いやる、やさしい心が咲かせているといいます。

『すてきな 三にんぐみ』

作／トミー＝アンゲラー
訳／いまえよしとも
1,320円（偕成社／1969年）

黒ずくめの3人は、ラッパ銃・コショウ吹きつけ・大まさかりを武器に、金持ちの馬車を狙うどろぼうです。ところが、みなし子の少女ステファニーと出会ったことで、集めた財宝の使い道を考えるようになります。

『よかったねネッドくん』

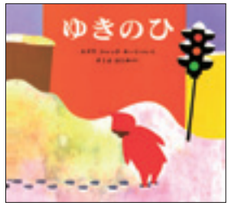
作／シャーリップ
訳／やぎたよしこ
1,540円（偕成社／1969年）

ニューヨークに住むネッドくんに、フロリダからパーティーの招待状が届きました。友だちが飛行機を貸してくれたけど、途中で爆発。でも、パラシュートで無事に脱出、でも……。幸運と不運が交互にやってきます。

『ピーターのいす』

作／E＝ジャック＝キーツ
訳／きじまはじめ
1,320円（偕成社／1969年）

妹が生まれてから、それまで自分が使っていたベッドやゆりかごがピンク色に塗り変えられていくのをせつない気持ちで眺めていたピーター。このイスだけは渡さないぞと、イスを持って家出を決めたピーターでしたが……。



『ゆきのひ』

文・絵／エズラ＝ジャック＝キーツ
訳／きじまはじめ
1,320円（偕成社／1969年）

はじめて雪が降った日のうれしさを、ピーターは外に飛びだして全身で表現します。足跡をつけたり雪玉をつくったり。ピーターの高揚感が伝わってきます。黒人の子どもが主人公になったはじめての絵本です。

『わたしのワンピース』

絵・文／にしまきかやこ
1,210円（こぐま社／1969年）

まっ白な布がフワフワ空から落ちてきました。カタカタとミシンでワンピースをつくりましょう。花や空や星など、目の前の景色が次々と、真っ白なワンピースの模様になりました。

特集

子どもに伝えるために 性とジェンダーの絵本

今、子どもたちに正しく性を伝えようとする本が多く出版されています。子ども自身の人権を尊重するようにつくられているものばかりですので、本を通して、みんなが自分らしく生きられる社会を考えてみましょう。

妊娠・出産

『あかちゃんの木』

作／ソフィー・ブラッコール
訳／やまぐちふみお
1,430円（評論社）

赤ちゃんはどこで手に入るんだろう？　という男の子の問いに、たくさんの大人がさまざまに答えてくれます。

『NAISSANCE 出産を巡る 切り絵・しかけ図鑑』

絵／エレーヌ・ドゥルヴェール
文／ジャン＝クロード・ドゥルヴェール
訳／弓井茉那、横田宇雄
監修／林 聡
3,850円（化学同人）

ミクロの世界で起こっている、卵子と精子の出会いから、細胞分裂をしながら子宮をめざす旅と、着床する様子を繊細な切り絵で見ていきます。

『あなたが おなかのなかに いたとき』

文／せきやゆうこ　絵／嶽 まいこ
1,760円（アリス館）

女性の卵子の大きさは、わずか0.1㎜。重さは100万分の3g。できたばかりの受精卵は生命の始まりです。たったひとつの細胞が10カ月を経て、37兆個の細胞にまで成長する神秘を見てみましょう。

『あかちゃんは どうやって できるの？』 新刊

文／コーリー・シルヴァーバーグ
絵／フィオナ・スミス
訳／たちあすか
1,870円（岩波書店）

男、女などの性別の表現を使わず、小さな子の疑問に答えます。肌の色も特定しない明るい色使いが、ユニバーサルな多様性を感じさせます。

『すくすく いのち』

作／はまのゆか
1,760円（めくるむ）

子宮に着床した受精卵は、約280日かけて少しずつ大きくなります。おなかがすいたらどうするのでしょう？　おしっこは？　などの疑問に答えます。

『コウノトリが はこんだんじゃないよ！』

著／ロビー・H. ハリス
イラスト／マイケル・エンバーリー
訳／上田勢子　監修／浅井春夫、艮 香織
2,420円（子どもの未来社）

男性と女性の体の構造の違いとその役割、精子と卵子が受精したあとのミクロの世界をイラストで見ていきます。胎児が大きくなり、誕生するまでを時系列で追います。

新刊　2023年３月以降に発売され、はじめて小誌で紹介する絵本です。

性と体について考える本

『女の子のからだえほん』『男の子のからだえほん』

作・絵／マティルド・ボディ
作／ティフェーヌ・ディユームガール
監修／艮 香織　訳／河野 彩
各1,870円（パイ インターナショナル）

女の子、男の子それぞれの体の特徴と、その構造や役割を紹介しています。自分の体を知ることは、自分を大切にする第一歩です。

新刊

「やさしくわかる性のえほん」シリーズ

『あかちゃんは どこからくるの？』『じぶんの からだは どんなからだ？』『すきって どんなきもち？ いやって いえるかな？』

監修／田代美江子　絵／せべまさゆき　編著／WILLこども知育研究所
各1,430円（金の星社）

自分の体を大切にするように、相手の体も大切にしなければいけないこと、誰かを好きになることなど、段階を追って子どもたちと話ができます。

『性の絵本 せいって なーんだ？』

作／たきれい　監修／高橋幸子
1,650円（KADOKAWA）

性とは、自分らしさ。でも、体型や、髪や目の色、肌の色など、自分で決められないものについては、からかったりしてはいけないこと、見た目の悪口は言ってはいけないことなどをわかりやすく紹介しています。

「おかあさんとみる性の本」シリーズ

監修／山本直英　各1,430円（童心社）

『ぼくのはなし』

作／和歌山静子

ぼくはお父さんとお母さんが愛し合って生まれてきました。お父さんはなくなってしまったけど、この世に送り出してくれた、ぼくという人間の命を生きていきます。

『わたしのはなし』

作／山本直英、和歌山静子

私はお風呂に入ると、心も体もあたたまって落ち着きます。お母さんはいつも自分の心と体は地球上にただひとつのものだから、大切にしなさいと言います。

『ふたりのはなし』

作／山本直英　絵／和歌山静子

昔々、神さまがはじめてつくった人間は男の人と女の人が背中でくっついていました。でも、ふたりがあまりにうるさいので、神さまが2つに切り離しました。それで男の人と女の人は、互いを探し求めるのだそうです。

「人間と性の絵本」シリーズ

絵／柿崎えま　各2,750円（大月書店）

『1 わたしってどんな人？』『2 からだってステキ！』

文／浅井春夫

『3 思春期ってどんなとき？』

文／水野哲夫

『4 性は人権なの？』『5 考えよう！ 人間の一生と性』

文／艮 香織

ユネスコの国際セクシュアリティ教育ガイダンスに基づいて、生まれてから高齢になるまでの、一生にわたるセクシュアリティについて包括的に考えます。大人も一緒に読みたいシリーズ。

『はじめまして、ママ』

作／マチュー・ラヴォワ
訳／椎名かおる
880円（あすなろ書房）

今日は赤ちゃんにとって特別な日。わんちゃんの背中にのって、森を抜け、川をわたり、山を越えてどんどん進みます。女の人が待ってくれていました。カナダのケベック州でブックスタート用につくられた絵本です。

『プッチェットの ぼうし イタリアのむかしばなし』

再話／中脇初枝
絵／アヤ井アキコ
1,540円（あすなろ書房）

プッチェットの帽子がある日なくなってしまいました。それを見つけたチョッケットは返そうとせず交換条件を出します。その条件を叶えに行きますが、次々に交換条件が出されます。果たして帽子は戻ってくるのでしょうか？

『とっても すてきな おうち です』

文／なかがわちひろ
絵／高橋和枝
1,650円（アリス館）

まずはアリさんご自慢のおうちにようこそ。チョウチョやクモに、ツバメさんも自分のおうちが自慢です。家の庭には、すてきなおうちがいっぱいあって、どれも魅力的ですが、ネコさんには、家の中がいちばんのようです。

『ほしまつりが やってくる！』

作／杉田比呂美
1,650円（アリス館）

天気予報を聞いた村長さんが、村じゅうに知らせます。「ほしまつりを開催します」。なんと10年ぶり！ 村じゅう大喜びで、準備を始めました。衣装に音楽、飾りつけ、お菓子も用意して、会場の原っぱにみんなが集まりましたよ。

『ゆびのすうじ へーんしん』

作／齋藤陽道
絵／あわい
1,430円（アリス館）

手話の数字で変身手遊びです。1と1は何でしょう？　ページをめくると答えが出てきます。1から10まで、かわいいふたりの子どもたちに教えてもらいましょう。手話の豊かな表情が伝わってきます。

もう読んだ？

新刊100!!

2023年3～5月に発売された新刊絵本の中から、読みきかせにもおすすめの100冊を選びました。子どもたちとすてきな時間を過ごしてください。

※出版社五十音順　※㊨は右開きの本。
マークは乳幼児から、中・高は中・高校生も楽しめる本です。

定期購読者限定プレゼント

新刊絵本プレゼントの詳細は、このページの下欄をご覧ください。

『なんてくさいんだ！ ロンドンを救ったジョゼフの物語』

文／コリーン・ペフ
絵／ナンシー・カーペンター
訳／金原瑞人
1,980円（あかつき教育図書）

1858年の夏、ロンドンのテムズ川は、大量のうんちで悪臭に満ち、コレラも人々を苦しめていました。テムズ川をきれいにするため、土木技師ジョゼフは何をしたでしょう？

『ねこは わたしの まねばかり』

作／クォン・ユンドク
訳／キム・ファン
1,760円（あかね書房）

私には、友だちがいません。でも、何から何まで、私のマネばかりするネコがいます。ある日、今度は私がネコのマネをしようと決心しました。ネコのように体と心を大きくふくらませて、外に出ました。

『どこ どこ いってた？』

原作／マーガレット・ワイズ・ブラウン
絵・訳／齋藤 槙
1,430円（あすなろ書房）

誰かに会ったら、思わず尋ねてしまう「どこに行ってたの？」。ネコさん、リスさん、小鳥さんからは、どんな答えが返ってくるでしょう？　ほかの動物たちにも聞いてみました。最後に登場するのは、カラスさんです。

※JPIC直販の定期購読の方に、抽選で新刊絵本100冊から1冊をプレゼントします。巻末のアンケートハガキまたはホームページのアンケートフォームから応募してください。

『こしたんたん』

作／りとうよういち
1,540円（絵本館）

トラの前に次々と獲物になる動物がやってきて、トラは獲物を捕らえるチャンスを狙っています。我慢できずいよいよ獲物に向かおうとしたそのとき、トラの腰に異変が!!　トラにチャンスはやってくるのでしょうか？

『こえていける』

文／バット・ズィトゥロウ・ミラー
絵／ジェン・ヒル
訳／ドリアン助川
1,870円（イマジネイション・プラス）

ボルダリングの高い壁を登れない私。どうすれば今の自分を越えられるのかという問いに家族が助言します。自分が思っているよりも強い心を持っていることに気づき、誰かと一緒なら越えられることを学びます。

『すきな たべもの おしえて』

作／新井洋行
1,320円（偕成社）

クマくんの好きな食べものは、どんぐりだそうです。さあ、クマくんが、動物たちにインタビューしていきます。「好きな食べもの教えてくーださい」。どんな答えが返ってくるでしょう。最後は、君の番です。

『たべて うんこして ねる』

作／はらべこめがね
1,650円（岩崎書店）

「たべてうんこしてねる」。毎日誰もがやっているこの行為。赤ちゃん、子ども、大人、ネコも同じ。うれしいときも、悲しいときも、食べてうんこして寝る。何があっても食べることは生きていくうえで大切だと教えてくれます。

『はじめての梅しごと 梅シロップをつくろう』

作／髙野紀子
1,540円（偕成社）

梅が実るお手伝いをしてくれたミツバチが、「梅しごと」の説明をしてくれます。梅シロップをつくるには、丁寧に梅の下ごしらえをしてから、ビンに氷砂糖と一緒に詰めていきます。ほかにもいろいろな「梅しごと」があります。

『やさいの はな なんの はな？』

構成・文／宮崎祥子
写真／網野文絵
1,540円（岩崎書店）

毎日食べる野菜たちがどうやってできるのか、どんな花が咲いて、どう実をつくるのか知っていますか。花屋さんに並ぶことはありません。畑に行かないと見ることができないカラフルでかわいい花たちを見てください。

『いちばん だいすき』

文／メアリー・マーフィー
絵／チュ・チョンリャン
訳／のざかえつこ
2,310円（化学同人）

女の子が好きなのは、景色を眺められる窓、おばあちゃんのあんずジャム、川、赤鉛筆……。たくさんあるけど、世界でいちばん好きなのは何でしょう？
今を生きる子どもの大好きが伝わります。

『トラタのりんご』

作／nakaban
1,870円（岩波書店）

トラタはベランダでリンゴの苗を育て始めました。夏のある日、赤い実をくわえた鳥のあとを追って、町はずれの古い門をくぐりました。そこに実るリンゴは、とても酸っぱくてお店で売っているリンゴとは違うようです。

『ひろいせかいは きみのもの』

文／オリヴィア・ホープ
絵／ダニエル・イグヌス
訳／やまもとみき
2,420円（化学同人）

「おはよう、朝だよ。明るい世界に飛び立とう！」と、作者は呼びかけます。空を越え、海をわたり、ジャングルをかき分け、雪山を駆け抜けろ。そのままの君がすばらしく、外の世界は君のものなんだから。

『愛さえあれば All you need is LOVE』

作／ジョン・レノン、ポール・マッカートニー
絵／マーク・ローゼンタール
訳／金原瑞人
2,750円（潮出版社）

「できることならなんでもできる　うたえる歌ならなんでもうたえる　いえることならなんでもいえる　だけどなかよくしよう」。ビートルズのあの名曲が絵本になりました。世界は愛であふれていることを教えてくれます。

プログラム（各10～15分）小学校高学年

10月 テーマ：スポーツの秋に「野球」

❶『ホームランを打ったことのない君に』
作／長谷川集平
1,320円（理論社）
誰もが知っているスポーツ「野球」。いつかホームランを打ちたいという気持ちに年齢は関係ありません。

❷『耳の聞こえないメジャーリーガー ウィリアム・ホイ』
文／ナンシー・チャーニン　絵／ジェズ・ツヤ
訳／斉藤 洋
品切れ中（光村教育図書）
現在も使われている野球のサインを考案したのは、聴覚障碍を持った選手でした。出だしで、約150年前のおはなしであることを前置きするといいでしょう。

11月 テーマ：図書館ってどんなところ？

❶『としょかんライオン』
作／ミシェル・ヌードセン　絵／ケビン・ホークス
訳／福本友美子
1,760円（岩崎書店）
ある図書館でのライオンとのできごと。既成概念はしばし忘れて。最後にニューヨーク公共図書館の紹介をしてもいいですね。

❷『バスラの図書館員 イラクで本当にあった話』
絵・文／ジャネット・ウィンター　訳／長田 弘
品切れ中（晶文社）
ある図書館員が命がけで戦火から守った図書館の本。図書館がさまざまな言語や時代をつなぐ稀有な存在であることに気づかされます。

12月 テーマ：年の瀬に

❶『十二支のお節料理』
作／川端 誠　1,540円（BL出版）
お正月の準備のために働く動物たちの生き生きとした様子をテンポよく。後半の文字のないページはゆっくりと見せ、一緒に味わいましょう。

❷『じょやのかね』
作／とうごうなりさ　1,320円（福音館書店）
大晦日のできごとが、モノトーンの木版画でつづられていきます。お寺の鐘が「ゴーン」と鳴るところは間をしっかりとって。

❸『かさじぞう』
再話／瀬田貞二　画／赤羽末吉
1,100円（福音館書店）
雪がたくさん降ってきて、お地蔵さまに編み笠をかぶせるところは、心をこめて語りかけるように。あたたかい気持ちでプログラムを終えましょう。

（古市未央）

プログラム（各10～15分）小学校中学年

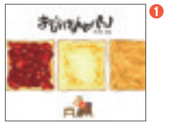
10月 テーマ：食べもので見つけた数字

❶『1つぶのおこめ さんすうの むかしばなし』
作／デミ　訳／さくまゆみこ
2,090円（光村教育図書）
１粒のお米を通して、やさしい娘が、欲ばりな王の心を変えていくおはなし。どんどん大きくなっていく数字に注目して読みましょう。

❷『カボチャのなかにたねいくつ？』
作／マーガレット・マクナマラ　絵／G.ブライアン・カラス
訳／真木文絵　品切れ中（フレーベル館）
見た目ではわからない中身の不思議と、大きな数を数えるときの工夫がわかります。最初に、予想をしてみるのもいいですね。

11月 テーマ：おいしいパンをどうぞ

❶『おじいちゃんとパン』
絵・文／たな
1,078円（パイ インターナショナル）
毎日、食パンに好きなものをのせて、おいしそうに食べるおじいちゃん。次は、何をのせるのかと、めくるページに期待がふくらみます。



❷『ネコノテ パンヤ』
作／高木さんご
絵／黒井 健
1,430円（ひさかたチャイルド）
小さなパン屋で、店番をするななえのもとに、不思議なお客さんが、次々とやってきます。主人公と一緒にドキドキを楽しみましょう。

❸『マフィンおばさんのぱんや』
作／竹林亜紀
絵／河本祥子
990円（福音館書店）
マフィンおばさんを手伝いたいと、アノダッテが焼いたのは、どんどんふくらむパン。臨場感を持って読むのがおすすめです。

12月 テーマ：すてきなおなべ

❶『アイヌのむかしばなし ひまなこなべ』
文／萱野 茂　絵／どいかや
1,540円（あすなろ書房）
天から村へ降りてきた熊神が、踊りの上手な若者に出会います。その若者の正体は？ あたたかい絵から、アイヌの生活もわかります。

❷『ワタナベさん』
作／北村直子
1,320円（偕成社）
鍋ひとつで何でも作るワタナベさん。今日の注文はナポリタン。頭を抱えるワタナベさんの頑張りを、つい応援したくなります。

（増田穂里）

プログラム（各10～15分）小学校低学年

10月 テーマ：お月さまってすごい！

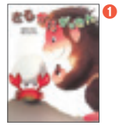
❶『ふしぎな月』
文／富安陽子　絵／吉田尚令　1,650円（理論社）
月の光はすべての生きものを照らし、命を育みます。月の不思議な力を描いています。

❷『お月さまってどんなあじ？』
絵・文／マイケル・グレイニエツ　訳／いずみちほこ
絶版（セーラー出版／現・らんか社）
お月さまを食べてみたい動物たちが力を合わせてついにパリッ。かけひきが楽しいです。

❸『つきよのくじら』
作／戸田和代　絵／沢田としき　1,650円（鈴木出版）
父さんの偉大さを知ったクジラの子どもが、父さんを探す旅に出かける、冒険と成長の物語。

11月 テーマ：昔ばなしを楽しもう！

❶『さるかにがっせん』
文・絵／いもとようこ　1,650円（金の星社）
ずる賢いサルにだまされた、かわいそうなカニ。仲間たちと知恵を出して立ち上がります。



❷『かちかちやま』
再話／おざわとしお　画／赤羽末吉
1,320円（福音館書店）
やさしいおじいさんとおばあさんをだました悪ダヌキと、賢いウサギが対決します。

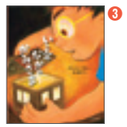
❸『つるのおんがえし』
文／松谷みよこ　絵／いわさきちひろ
1,320円（偕成社）
ワナにかかったツルが、助けてもらったお礼に自分の羽を抜いて美しい布を織ります。でもその姿を見られてしまい、別れのときが訪れます。美しくもせつない民話。

12月 テーマ：早く来い来いお正月！

❶『おばあちゃんのおせち』
作／野村たかあき　1,430円（佼成出版社）
きりちゃんがはじめておばあちゃんのおせち料理を手伝います。「いわれ」もわかりますよ。

❷『こたつ』
作／麻生知子　1,430円（福音館書店）
新しい年を迎える家族の様子が、こたつを上から見るユニークな視点で描かれています。

❸『いえのなかのかみさま』
文／もとしたいづみ　絵／早川純子
1,430円（光村教育図書）
家の中にはいろいろな神さまがいて、家族を守ってくれています。神さまを大切にすることを教えてくれます。



（鶴見美佐子）

対象別おはなし会のプログラムです。ここで紹介する絵本や紙芝居は、ご家庭での読みきかせにもおすすめです。ブックガイドとしてもご活用ください。

行事絵本・季節の絵本

実りの秋

『干し柿』
写真・文／西村 豊　1,650円（あかね書房）
柿は日本の秋のシンボルですが、しぶ柿は、そのままではおいしくありません。では、どうしたらいいでしょう？　干し柿には、昔の人の知恵と工夫があります。

クリスマス

『クリスマスのおかいもの』
文／ルー・ピーコック　絵／ヘレン・スティーヴンズ
訳／こみやゆう　1,650円（ほるぷ出版）
ノアは、ママとイーヴィ・メイとゾウのオリバーと一緒に、ショッピングモールにやってきました。クリスマスプレゼントの買いものは、なかなか大変、もうクタクタです。

紙芝居

『うさぎとかめ』
脚本／やえがしなおこ　絵／やべみつのり、矢部太郎
1,540円（童心社）
ウサギとカメが、丘のてっぺんまで競走することになりました。ゆっくり、休まず進むカメを、野原の仲間が応援します。

紙芝居

『ハロウィンに こんばんは！』
脚本・絵／礒 みゆき　1,540円（童心社）
みくちゃんとまあくんとけんちゃんが、明日のハロウィンの相談をしています。木の陰から、誰かが見ていました。どんなハロウィンになるでしょうか？

紙芝居

『ピエリーノとまじょ』
脚本／さえぐさひろこ　絵／スズキコージ
2,090円（童心社）
ピエリーノは、元気な男の子です。ある日、リンゴを食べていると、怖そうなおばあさんに声をかけられました。魔女かもしれない……、とピエリーノは思いました。

（安冨ゆかり）

※当財団（JPIC）では読書を通して国民の生涯学習推進・読書活動の推進のために、1993年より「JPIC読書アドバイザー養成講座」を開設。読書や出版について体系的に学習する講座です。
JPIC読書アドバイザークラブ（JRAC）は、この講座の修了生の有志により自主活動しているクラブ。全国に約660名が在籍、地域のおはなし会などで活躍しています。

著作権保護コンテンツ

第13回

保育者のたまごたちと絵本

保育現場の先生たちは、養成校で絵本についてどのように学んできたのでしょうか。
京都文教短期大学の事例を鳥丸佐知子さんに伺う2回目です。

取材・文／荒木晶子

大型絵本では、子どもたちが指さしに寄ってきます。

図書館でのおはなし会で、子どもたちの反応を実感。

そばにいると安心できる日だまりのような保育者になってほしい

入学前課題『絵本を読む』を5年前からスタート

1年生前期の発達心理学の時間外学習課題『絵本ノート』に加え、2018年度からは入学前課題『絵本を読む』もスタートしました。この課題は、最低5冊の絵本を読んで、形式が決まったシートにタイトルや作者名、あらすじなどを記入してもらうものです。

例年1月初めごろに入学予定者に送る入学前課題のひとつで、4月のオリエンテーションの際に提出してもらいます。自宅に絵本がたくさんない場合は図書館などで借りて読んでいるようです。5冊で提出する学生が多いですが、それ以上読んで提出してくる学生もいます。

この課題の目的は、『絵本ノート』と同じです。小さいころに絵本の読みきかせをしてもらったり、自分で読んだりした経験はあっても、その後は絵本にふれていない学生がほとんどなので、まずは絵本を手にとって、実際に読んでもらうこと。

もうひとつは、自分の考えや思いを文章にすることです。絵本の感想や要点をまとめるのは、いざやろうとすると意外に難しいもの。うまくできなくてもいいので、自分の言葉で表現する点を大事にしています。

この課題が予習の役割を果たし、入学後の『絵本ノート』にスムーズに取り組めたという学生も少なくありません。

教員それぞれが得意な分野で絵本を使った授業を行う

本学では、昨年から認定絵本士の資格を取得できるようになり、半数ほどの学生が資格取得に必要な授業を受けていますが、そのほかにも、絵本を使った授業が多数設けられています。

たとえば、「子どもと言葉」という授業では、日常の会話に注目することから発展させ、絵本を手づくりしています。

造形の授業では、『わたしのワンピース』（こぐま社）を読んでから画用紙に女の子の絵を描き、帽子と洋服の部分をくりぬきます。そこにいろいろなものをあてはめて模様を楽しむことが行われています。屋外に出て、くりぬいた部分に景色をあてはめ、スマートフォンで撮影したりと、クリエイティブなワークショップです。

「乳児保育関係」では、絵本をスクリーンに映し、先生が読むのに合わせて学生がページをめくる練習をします。教員がそれぞれ自分の得意な分野を生かして、絵本を使ったさまざまな授業を行っています。

また、学内の子育て支援室「ぶんきょうにこにこルーム」には、地域の親子が毎日遊びに来ます。

ここではゼミの一環として、学生たちがプログラムをつくり、絵本の読みきかせやパネルシアターなどのワークショップを行っています。私自身も、絵本の読みきかせボランティアをしていたころ、音楽や効果音をつけて実演したことがありますが、学生たちもただ絵本を読みきかせるだけでなく、そこから広げた企画を考えています。

たとえば、最近では、『きんぎょがにげた』（福音館書店）の読みきかせをした学生たちが印象に残っています。

あらかじめ模造紙で大小さまざまな池をつくって壁に貼っておき、絵本を読んだあとで「逃げた金魚を池に戻してあげよう！」と子どもたちに声をかけ、画用紙でつくった金魚を池に貼ってもらっていました。

絵本を読むときの気持ちは子どもに伝わる

私の専門である教育心理学では、「観察学習」といって、人間は他人の行動を観察し、それを真似することで学習するという理論があります。観察学習では、人間は行動そのものではなく、どんな意図を持って行動しているかを読みとるとされています。これを保育にあてはめて考えると、子どもにとって注目する存在である保育者がどのような気持ちで行動しているかによって、子どもに与える影響も変わってしまうといえます。

絵本の読みきかせにおいても同じで、子どもは保育者の気持ちの違いを敏感に感じとります。にこにこしていても、面倒だと思いながら読んでいれば、子どもは絵本をつまらないものと思い、反対に「ぜひこの本のおもしろさを伝えたい！」と思って読んでいれば、絵本を読むのは楽しいことだと感じるのです。

大好きな人にプレゼントする気持ちで絵本を読んでほしい

ですから、学生たちには、自分自身が絵本を好きになり、好きな人にプレゼントするような気持ちで読んであげてほしいと伝えています。プレゼントが相手の好みに合わず、はずれることもあるかもしれません。でも、本当に相手とかかわりたいなら、もう一度トライしますよね。そんな気持ちで読みきかせをすれば、きっと子どもたちにも伝わるのではないかと思います。

ただ、それは絵本を上手に読めればいいということではありません。もちろん下手より上手なほうがいいのですが、それよりも保育者としていちばん大事な資質は、子どもたちに安心や安全を感じてもらえることです。

生きているとうまくいかないことやつらいこともあります。それでも生きていることを楽しんでいて、その人のところに行くとホッとしたり、元気をもらえる。本学の学生たちには、そんな日だまりのような保育者になってほしいですね。

鳥丸佐知子
とりまる・さちこ
京都文教短期大学幼児教育学科教授。読みきかせボランティアを20年以上経験したあと大学院で学び、2014年より現職。発達心理学、子どもの理解と援助、子ども家庭支援の心理学などのほか、絵本に関連した科目も担当。

著作権保護コンテンツ

すべての子どもたちに笑顔を

第11回

支援の必要な子と絵本

前号では、東京都の「清瀬市子どもの発達支援・交流センター とことこ」センター長・岩澤寿美子さんに、
発達支援の療育現場で絵本がどのように使われているかをお聞きしました。
今号ではおはなし会でも使える具体的なテクニックと考え方について、お話しいただきます。

取材・文／小山まゆみ

岩澤寿美子 いわさわ・すみこ

公認心理師、臨床発達心理士、精神保健福祉士。東京都清瀬市子どもの発達支援・交流センター とことこセンター長。保護者や子どもへの相談・療育指導のほか、幼保園・小中学校への巡回指導なども行っている。

まずは環境を整えてあげましょう

おはなし会の場にいるお子さんはほとんどの場合、読み手の方と聞き手のお子さんの間に見えない境界線があることをわかっています。一方、発達支援を必要とするお子さんのなかには、見えない線がわからない子もいるため、おはなし会の途中でその線を越えて歩いたり、一度立つと戻る場所がどこなのかわからなくなったりすることがあります。

大人ができる手助けとしては、まず環境を整えてあげることが大事です。たとえば、見えない線のところに物理的に花を置いたり、目印としてシートを敷いたりして、その子がいるべき場所を目で見てわかるようにするといでしょう。

保護者のひざの上に座っておはなしを聞くといった場合でも、「この子はきっとおとなしく座っていないだろうな」とあきらめを感じている保護者が少なくありません。万が一のときは、保護者ご自身が対処するつもりで参加されている方も多いと思いますが、読み手側に人手があるなら、ぜひ「お子さんがひざの上から離れても、お母さんはここにどっしり座っていてくださいね」と声かけを。そうすれば、お子さんがひざの上を離れてしまったとしても、お子さんに「お母さんのところに行けばいいんだよ」と、戻る場所を示す声かけをすることができます。

こういうとき、保護者の方は「ごめんなさい」「すみません」などと恐縮されることが多いもの。ですので、「車が出てくる場面を遠くから見て、とても興味を持ってくれていましたね。車が好きなのかしら」など、何かしら具体的にフィードバックをしてあげられると、とても安心されると思います。

小学校の朝の時間に読みきかせをするようなときは、季節の話をするといった、冒頭におしゃべりの時間を設けるのは難しいものです。短い時間で環境を整えるには、たとえば、ハンカチや風呂敷で本をくるみ、「今日はこれを読みます。何が出てくるかな?」と言って、興味を惹きつける方法があります。「何をやるんだろう?」と興味を持ってもらうことは、導入としても非常に大切です。

注意するのではなく、やってほしいことを伝えて

おはなし会の場合、絵本の持つ世界を崩さないように、読み手のカラーを出さずに読むのが王道でしょう。けれども、発達支援の現場では、おはなしの内容によって本を上下左右に動かしたり、声色を使ったり、ちょっとオーバーに強弱をつけて読むことも必要になります。

また、お子さんがまったく本に興味を示してくれない場合や、ひとりで別のことをしていることもあります。これらについては、そういう過ごし方もあることを、大人が承知しておくのが大事。別のことをしていても、チラチラと読み手のほうを見ているとか、耳だけはこちらに傾けているようであれば、そういう参加の仕方もあると受け止めてあげてください。

おはなし会では、お子さんに注意したいような場面が出てくることもあるかと思います。そういうときは「それはダメよ」と注意するのではなく、やってほしいことを伝えるのがおすすめです。

見えない線を出てしまったら、「こっちに来ないでね」ではなく、「そこの丸のところに座っていてね」などと声かけをしてください。あるいは、こちらに来ることはよしとして、「おばさんが『いいよ』と言ったら、本をめくってね」でもいいと思います。

話しかけてくる子、じっとしていられない子には

おはなしを読んでいる最中に、読み手に話しかけてしまう子がいるとわかっているときは、マイクのようなもの(本物でないところがミソ!)を用意しておくと便利です。会のはじめに「これからこのマイクでお話しします。このマイクを持っている人がお話しする人だからね」と言い、マイクを持っている人しか、順番にお話しできないようにもっていきます。絵本を読むときは「マイクはここに置いて読みます」でかまいません。

そして、上手にスルーすることも大事になってきます。お子さんに話しかけられるたびにこたえてしまうと、「話しかけてもいいんだ」と思って、どんどん話しかけてくることになりかねません。このようなときは、「聞いているよ。わかっているよ。でも、おばさんはおはなしを続けるよ」と表情であらわしつつ、スルーを。

また、聴覚が敏感なお子さんもいます。強弱をつけながら読むといっても、突然、大きな声を出したり、わっ!と驚かせたりする読み方をすると、それがイヤで絵本まで嫌いになってしまうことがあります。何かの音が気になって絵本に集中できないなど、その子なりの理由があるので、音に敏感なお子さんがいることも頭に置いておいてください。

じっと座っているのが苦手なお子さんにとっては、会が始まるまで何もない状況で3分待つということはとてもつらいものです。体を動かすと落ち着くことがあるので、会が始まるギリギリまで走ったり、体を動かしたりしてから座ってもらうのも手でしょう。

みんなと同じような行動にならない子がいても、注意や否定をするのではなく、その子の気持ちをわかってあげることが大切です。保護者にとっても我が子を受け止めてくれる場、という意識につながります。

まわりのお子さんたちは、大人の対応の仕方に合わせてその子を見るようになることが多々あります。やり方ひとつで「あの子はいつも注意される子」「あの子はいつもできない子」と思わせてしまう可能性が少なからずあるのです。

保護者にとっても、「先生」と呼ばれる人たちのひと言はとても重いもの。園や学校に来る読みきかせの先生が、わが子のことを〝困った子〟みたいな目で見ていたら、かなりショックでしょう。子ども自身も、おはなしの内容ではなく、怒られたり、注意されたことだけが残ってしまうので、声かけの仕方には十分に気をつけていきたいですね。

イラスト／アンヴィル奈宝子